

デーリー東北  
2019年(令和元年)12月8日(日曜日)(3)

# 青森県内IT企業が支援 家電見本市に学生派遣

CESに赴く(前列右から時計回りに)沼沢貴大さん、宮古沙紀さん、岡本信也さん、立花拓也さん=7日、八戸市



## 若手育成、来月渡米へ

青森県内のIT企業を中心とした10社が、米ラスベガスで来年1月に開かれる「CES」に大学生を派遣する。若手人材の育成と地元企業のPRを目的としている。

世界最大規模の家電見本市で、元企業の取り組みをPRする狙いがあり、昨年に続く派遣。企業の支援を受けた

学生は現地で人工知能(AI)や仮想現実(VR)などの最先端技術に触れる。派遣されるのは青森公立大経営経済学部地域みらい学科2年の宮古沙紀さん(20)と、八戸高専電気情報工学科コース4年の沼沢貴大さん(18)。

派遣を企画したヘプタゴン(三沢市)代表の立花拓也さん(35)らが交流のある青森県内の大学教授らに呼び掛け、応募した6人の中から書類選考や面接を経て選んだ。支援企業が2人の旅費を全額負担する。

他に昨年派遣された八戸工業大工学科システム情報工学科3年の落合佳祐さん(21)が自費で参加。立花さん、アイティコワーカー(八戸市)取締役の岡本信也さん(41)を合わせ、計5人で

赴く。

7日、アイティコワーカーの事務所で行われた壮行式に臨んだ宮古さんは取材に「ドローンや空飛ぶ自動車の技術に興味がある。自分の視野を広げられれば」と胸を躍らせ、沼沢さんは「特にスマートスピーカーに関する心がある。この地域でも発展させられる技術だから」と抱負を語った。

立花さんは「会社側としても若い人の考え方を知る機会になるし、私たちの考え方を知ってもらえる」と派遣の意義を強調。岡本さんは「CESで得た刺激を地域の人々に伝えてほしい」と期待した。

CESは1月7~10日。一行は8日に日本を出発し、13日に帰国する。

(齋藤桂)